

「介護福祉士養成課程における教育内容の見直し」

検討のまとめ

(参考資料)

**介護福祉士養成課程のカリキュラム(案)**

○「求められる介護福祉士像」と「領域の目的と教育内容等」・・・1

○カリキュラムの基準

・領域「人間と社会」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

・領域「介護」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

・領域「こころとからだのしくみ」・・・・・・・・・・・・・・・・8

・領域「医療的ケア」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

# 「求められる介護福祉士像」と「領域の目的と教育内容等」(案)

## 求められる介護福祉士像

1. 尊厳と自立を支えるケアを実践する
2. 専門職として自律的に介護過程の展開ができる
3. 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる
4. 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる
5. QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる
6. 地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる
7. 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する
8. 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる
9. 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる
10. 介護職の中で中核的な役割を担う



## 高い倫理性の保持

	目的	教育内容	ねらい
人間と社会の理解	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養う。</li> <li>2. 人間関係の形成やチームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を身につける。</li> <li>3. 対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を身につける。</li> <li>4. 介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を身につける。</li> <li>5. 介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養う。</li> </ol>	<p>人間の尊厳と自立</p> <p>人間関係とコミュニケーション</p> <p>社会の理解</p>	<p>人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対人援助に必要な人間関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。</li> <li>2. 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。</li> <li>2. 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。</li> <li>3. 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。</li> <li>4. 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する学習とする。</li> </ol>
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。</li> <li>2. 介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。</li> <li>3. 本人、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。</li> <li>4. 対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。</li> <li>5. 介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。</li> <li>6. 各領域での学びを統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。</li> </ol>	<p>介護の基本</p> <p>コミュニケーション技術</p> <p>生活支援技術</p> <p>介護過程</p> <p>介護総合演習</p> <p>介護実習</p>	<p>介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。</p> <p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。</p> <p>介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。</li> <li>② 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。</li> </ol>
こころとからだのしくみ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。</li> <li>2. 認知症や障害のある人の生活を支えるという視点から、医療関連職種と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。</li> <li>3. 認知症や障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基礎的な知識を養う。</li> </ol>	<p>こころとからだのしくみ</p> <p>発達と老化の理解</p> <p>認知症の理解</p> <p>障害の理解</p>	<p>介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。</p> <p>人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援について理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。</p>
	<p>医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。</p>	<p>医療的ケア</p>	<p>医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。</p>

# 「求められる介護福祉士像」と「領域の目的と教育内容等」(現行)

## 資格取得時の介護福祉士養成の到達目標

1. 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける
  2. あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する
  3. 介護実践の根拠を理解する
  4. 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる
  5. 利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる
  6. 介護に関する社会保障の制度、施策についての基本的理解ができる
  7. 他の職種の役割を理解し、チームに参画する意義を理解できる
- 利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける
8. 利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる
  9. 円滑なコミュニケーションの取り方の基本を身につける
  10. 的確な記録・記述の方法を身につける
  11. 人権擁護の視点、職業倫理を身につける

## 求められる介護福祉士像

1. 尊厳を支えるケアの実践
2. 現場で必要とされる実践的能力
3. 自立支援を重視し、これからの介護ニーズ、政策にも対応できる
4. 施設・地域(在宅)を通じた汎用性ある能力
5. 心理的・社会的支援の重視
6. 予防からリハビリテーション、看取りまで、利用者の状態の変化に対応できる
7. 多職種協働によるチームケア
8. 一人でも基本的な対応ができる
9. 「個別ケア」の実践
10. 利用者・家族、チームに対するコミュニケーション能力や的確な記録・記述力
11. 関連領域の基本的な理解
12. 高い倫理性の保持

領域	目的
人間と社会の理解	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養する。</li> <li>2. 利用者に対して、あるいは多職種協働を進めるチームケアにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力を養う。</li> <li>3. アカウンタビリティ(説明責任)や根拠に基づく介護の実践のための、わかりやすい説明や的確な記録・記述を行う能力を養う。</li> <li>4. 介護実践に必要な知識という観点から、介護保険や障害者総合支援法を中心に、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を養う。また、利用者の権利擁護の視点、職業倫理観を養う。</li> </ol>
介護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。</li> <li>2. 自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。</li> <li>3. 利用者のみならず、家族等に対する精神的支援や援助のために、実践的なコミュニケーション能力を養う。</li> <li>4. 多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う。</li> <li>5. リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。</li> </ol>
こころとからだのしくみ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護実践に必要な知識という観点から、こころとからだのしくみについての知識を養う。</li> <li>2. 増大している認知症や知的障害、精神障害、発達障害の分野で必要とされる心理的社会的なケアについての基礎的な知識を養う。</li> </ol>
医療的ケア	医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。

教育内容	ねらい
人間の尊厳と自立	「人間」の理解を基盤として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。
人間関係とコミュニケーション	介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。
社会の理解	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。</li> <li>2. わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する学習とする。</li> <li>3. 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する学習とする。</li> <li>4. 介護実践に必要な観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的な知識を習得する学習とする。</li> </ol>
介護の基本	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。
コミュニケーション技術	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。
生活支援技術	尊厳の保持の観点からどのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。
介護過程	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。
介護総合演習	実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせでの学習とする。
介護実習	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。</li> <li>② 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。</li> </ol>
発達と老化の理解	発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的な知識を習得する学習とする。
認知症の理解	認知症に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。
障害の理解	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。
こころとからだのしくみ	介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。
医療的ケア	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。

# 領域「人間と社会」(案)

## 領域の目的:人間と社会

1. 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養う。
2. 人間関係の形成やチームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を身につける。
3. 対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を身につける。
4. 介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を身につける。
5. 介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養う。

## カリキュラムの基準

		教育内容	ねらい	教育に含むべき事項	留意点
人間理解	必	人間の尊厳と自立 (30時間以上)	人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。	①人間の尊厳と人権・福祉理念  ②自立の概念	人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う内容とする。  人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する内容とする。
		人間関係とコミュニケーション (60時間以上)	1. 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。  2. 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。	①人間関係の形成とコミュニケーションの基礎  ① ②チームマネジメント	人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解する内容とする。  介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解する内容とする。
社会	修	社会の理解 (60時間以上)	1. 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。  2. 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。  3. 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。  4. 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する学習とする。	①社会と生活のしくみ  ② ③社会保障制度 ④高齢者福祉と介護保険制度 ⑤障害者福祉と障害者保健福祉制度 ⑥介護実践に関連する諸制度	個人・家族・地域・社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と社会の関わりや自助・互助・共助・公助の展開について理解する内容とする。  地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度や施策を理解する内容とする。  社会保障制度の基本的な考え方としくみを理解するとともに、社会保障の現状と課題を捉える内容とする。  高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉の現状と課題を捉える内容とする。  障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容を理解し、障害者福祉の現状と課題を捉える内容とする。  人間の尊厳と自立に関わる権利擁護や個人情報保護など、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解する内容とする。
		人間と社会に関する選択科目	以下の内容のうちから介護福祉士養成施設ごとに選択して、科目の内容及び時間を設定する。 ① 生物や人間等の「生命」の基本的仕組みの学習(科目例:生物、生命科学) ② 社会生活における数学の活用の理解と数学的・論理的思考の学習(科目例:統計、数学(基礎)、経理) ③ 家族・福祉、衣食住、消費生活等に関する基本的な知識と技術の学習(科目例:家庭、生活技術、生活文化) ④ 現代社会の基礎的問題を理解し、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う学習(科目例:社会、現代社会、憲法論、政治・経済) ⑤ 様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら共生する社会への理解や、国際的な視野を養う学習(科目例:国際理解、多文化共生) ⑥ その他の社会保障関連制度についての学習(科目例:労働法制、住宅政策、教育制度、児童福祉)		
合計	240時間				

# 領域「人間と社会」(現行)

領域の目的:人間と社会
<p>1. 介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養する。</p> <p>2. 利用者に対して、あるいは多職種協働で進めるチームケアにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力を養う。</p> <p>3. アカウンタビリティ(説明責任)や根拠に基づく介護の実践のための、わかりやすい説明や的確な記録・記述を行う能力を養う。</p> <p>4. 介護実践に必要な知識という観点から、介護保険や高齢者や障害者自立支援法を中心に、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を身につける。また、利用者の権利擁護の視点及び職業倫理観を養う。</p>

カリキュラムの基準				
	教育内容	ねらい	教育に含むべき事項	
人間と社会	人間の尊厳と自立 (30時間以上)	「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。	①人間の尊厳と自立 ②介護における尊厳の保持・自立支援	
	人間関係とコミュニケーション (30時間以上)	介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。	①人間関係の形成 ②コミュニケーションの基礎	
	社会の理解 (60時間以上)	<p>1. 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から、互助・共助、公助に至る過程について理解するための学習とする。</p> <p>2. わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する学習とする。</p> <p>4. 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習とする。</p> <p>5. 介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する学習とする。</p>	①生活と福祉 ②社会保障制度 ③介護保険制度 ④障害者自立支援制度 ⑤介護実践に関連する諸制度	
合計 240時間	人間と社会に関する選択科目	<p>以下の内容のうちから介護福祉士養成施設ごとに選択して、科目の内容及び時間を設定する。</p> <p>①生物や人間等の「生命」の基本的仕組みの学習(科目例:生物、生命科学)</p> <p>②数学と人間のかかわりや社会生活における数学の活用と数学的・論理的思考の学習(科目例:統計、数学(基礎)、経理)</p> <p>③家族・福祉、衣食住、消費生活等に関する基本的な知識と技術の学習(科目例:家庭、生活技術、生活文化)</p> <p>④組織体のあり方、対人関係のあり方(リーダーとなった場合の)人材育成のあり方についての学習(科目例:経営、教育)</p> <p>⑤現代社会の基礎的問題を理解し、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う学習(科目例:社会、現代社会、憲法論、政治・経済)</p> <p>⑥その他の社会保障関連制度についての学習(科目例:労働法制、住宅政策、教育制度、児童福祉)</p>		

# 領域「介護」(案)

領域の目的:介護

1. 介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。
2. 介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。
3. 本人、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。
4. 対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。
5. 介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。
6. 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。

③

## カリキュラムの基準

教育内容	ねらい	教育に含むべき事項	留意点
介護の基本 (180時間)	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①介護福祉の基本となる理念</li> <li>②介護福祉士の役割と機能</li> <li>③介護福祉士の倫理</li> <li>④自立に向けた介護</li> <li>⑤介護を必要とする人の理解</li> <li>⑥介護を必要とする人の生活を支えるしくみ</li> <li>⑦協働する多職種の機能と役割</li> <li>⑧介護における安全の確保とリスクマネジメント</li> <li>⑨介護従事者の安全</li> </ol>	<p>複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する内容とする。</p> <p>地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解する内容とする。</p> <p>介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成するための内容とする。</p> <p>ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解する内容とする。</p> <p>介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解する内容とする。</p> <p>介護を必要とする人の生活を支援するという観点から介護サービスや地域連携など、フォーマル、インフォーマルな支援を理解する内容とする。</p> <p>多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する内容とする。</p> <p>介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解する内容とする。</p> <p>介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解する内容とする。</p>
① コミュニケーション技術 (60時間)	対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①介護を必要とする人とのコミュニケーション</li> <li>②介護における家族とのコミュニケーション</li> <li>③障害の特性に応じたコミュニケーション</li> <li>④介護におけるチームのコミュニケーション</li> </ol>	<p>本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意志決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得する内容とする。</p> <p>家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得する内容とする。</p> <p>障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を習得する内容とする。</p> <p>情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について理解する内容とする。</p>
介護 生活支援技術 (300時間)	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生活支援の理解</li> <li>②自立に向けた居住環境の整備</li> <li>③自立に向けた移動の介護</li> <li>④自立に向けた身じたくの介護</li> <li>⑤自立に向けた食事の介護</li> <li>⑥自立に向けた入浴・清潔保持の介護</li> <li>⑦自立に向けた排泄の介護</li> <li>⑧自立に向けた家事の介護</li> <li>⑨休息・睡眠の介護</li> <li>⑩人生の最終段階における介護</li> <li>⑪福祉用具の意義と活用</li> </ol>	<p>ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援につながる内容とする。</p> <p>住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する内容とする。</p> <p>対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける内容とする。</p> <p>生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する内容とする。</p> <p>健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援につながる内容とする。</p> <p>人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する内容とする。</p> <p>介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する内容とする。</p>

<p>介護過程 (150時間)</p>	<p>本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。</p>	<p>①介護過程の意義と基礎的理解 ②介護過程とチームアプローチ ③ 介護過程の展開の理解</p>	<p>介護実践における介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する内容とする。 介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解する内容とする。 個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につながる内容とする。</p>
<p>介護総合演習 (120時間)</p>	<p>介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。</p>	<p>①知識と技術の統合 ②介護実践の科学的探求</p>	<p>①実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる内容とする。 ②実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養う内容とする。 質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する内容とする。</p>
<p>介護実習 (450時間)</p>	<p>地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。</p>	<p>①介護過程の実践的展開 ②多職種協働の実践 ③地域における生活支援の実践</p>	<p>介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ内容とする。 多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ内容とする。 対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ内容とする。</p>

# 領域「介護」(現行)

領域の目的:介護

1. 介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる介護の知識・技術を養う。
2. 自立支援の観点から、介護実践できる能力を養う。
3. 利用者のみならず、家族等に対する精神的支援や援助のために、実践的なコミュニケーション能力を養う。
4. 多職種協働やケアマネジメントなどの制度のしくみを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う。
5. リスクマネジメント等、対象者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。

## カリキュラムの基準

教育内容	ねらい	教育に含むべき事項	
介護の基本 (180時間)	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。	①介護福祉士を取り巻く状況 ②介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ ③尊厳を支える介護 ④自立に向けた介護 ⑤介護を必要とする人の理解 ⑥介護サービス ⑦介護実践における連携 ⑧介護従事者の倫理 ⑨介護における安全の確保とリスクマネジメント ⑩介護従事者の安全	
コミュニケーション技術 (60時間)	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。	①介護におけるコミュニケーションの基本 ②介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション ③介護におけるチームのコミュニケーション	
生活支援技術 (300時間)	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。	①生活支援 ②自立に向けた居住環境の整備 ③自立に向けた身じたくの介護 ④自立に向けた移動の介護 ⑤自立に向けた食事の介護 ⑥自立に向けた入浴・清潔保持の介護 ⑦自立に向けた排泄の介護 ⑧自立に向けた家事の介護 ⑨自立に向けた睡眠の介護 ⑩終末期の介護	
介護過程 (150時間)	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。	①介護過程の意義 ②介護過程の展開 ③介護過程の実践的展開 ④介護過程とチームアプローチ	
介護総合演習 (120時間)	実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生等が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。		
介護実習 (450時間)	①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。  ②個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。		

介  
護

# 領域「こころとからだのしくみ」(案)

領域の目的:こころとからだのしくみ

1. 介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。
2. 認知症や障害のある人の生活を支えるという観点から、医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。
3. 認知症や障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基礎的な知識を養う。

## カリキュラムの基準

教育内容	ねらい	教育に含むべき事項	留意点
こころとからだのしくみ (120時間)	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。 <b>⑤</b>	<b>こころとからだのしくみI</b> ①こころのしくみの理解 ②からだのしくみの理解  <b>こころとからだのしくみII</b> ③移動に関連したこころとからだのしくみ ④身じたくに関連したこころとからだのしくみ ⑤食事に関連したこころとからだのしくみ ⑥入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ ⑦排泄に関連したこころとからだのしくみ ⑧休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ ⑨人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ  <b>⑤</b>	介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する内容とする。  生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する内容とする。  人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する内容とする。
発達と老化の理解 (60時間)	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。	①人間の成長と発達の基礎的理解  ②老化に伴うこころとからだの変化と生活	人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクルの各期(乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期)における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解する内容とする。  老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や、高齢者に多く見られる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する内容とする。
認知症の理解 (60時間)	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。  <b>④</b>	①認知症を取り巻く状況  ②認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解  ③認知症に伴う生活への影響と認知症ケア  ④連携と協働  ⑤家族への支援	認知症のケアの歴史や理念を含む、認知症を取りまく社会的環境について理解する内容とする。  医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解する内容とする。  認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につながる内容とする。  認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解する内容とする。  認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につながる内容とする。
障害の理解 (60時間)	障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。	①障害の基礎的理解  ②障害の医学的・心理的側面の基礎的理解  ③障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援  ④連携と協働  ⑤家族への支援	障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解する内容とする。  医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解する内容とする。  障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につながる内容とする。  障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解する内容とする。  障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につながる内容とする。

# 領域「こころとからだのしくみ」(現行)

領域の目的:こころとからだのしくみ

1. 介護実践に必要な知識という観点から、からだとこころのしくみについての知識を養う。
2. 増大している認知症や知的障害、精神障害、発達障害等の分野で必要とされる心理的社会的なケアについての基礎的な知識を養う。

## カリキュラムの基準

	教育内容	ねらい	教育に含むべき事項
こころと	こころとからだのしくみ (120時間)	介護実践の根拠となる、人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。	①こころのしくみの理解 ②からだのしくみの理解 ③身じたくに関連したこころとからだのしくみ ④移動に関連したこころとからだのしくみ ⑤食事に関連したこころとからだのしくみ ⑥入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ ⑦排泄に関連したこころとからだのしくみ ⑧睡眠に関連したこころとからだのしくみ ⑨死にゆく人のこころとからだのしくみ
か	発達と老化の理解 (60時間)	発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的な知識を習得する学習とする。	①人間の成長と発達の基礎的理解 ②老年期の発達と成熟 ③老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④高齢者と健康
だ	認知症の理解 (60時間)	認知症に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学習する学習とする。	①認知症を取り巻く状況 ②医学的側面から見た認知症の基礎 ③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④連携と協働 ⑤家族への支援
く	障害の理解 (60時間)	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。	①障害の基礎的理解 ②障害の医学的側面の基礎的理解 ③連携と協働 ④家族への支援

## 領域「医療的ケア」(案)

領域の目的: 医療的ケア

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

	教育内容	ねらい	教育に含むべき事項	留意点
医療的ケア	医療的ケア (50時間以上)	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。	①医療的ケア実施の基礎  ②喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)  ③経管栄養(基礎的知識・実施手順)  ④演習	医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」、「医療的ケアの倫理上の留意点」、「医療的ケアを実施するための感染予防」、「安全管理体制」等についての基礎的知識を理解する内容とする。  喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解する内容とする。  経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解する内容とする。  安全な喀痰吸引等の実施のため、確実な手技を習得する内容とする。

## 領域「医療的ケア」(現行)

領域の目的: 医療的ケア

医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。

### カリキュラムの基準

	教育内容	ねらい	教育に含むべき事項	
医療的ケア	医療的ケア (50時間以上)	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。	①医療的ケア実施の基礎  ②喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)  ③経管栄養(基礎的知識・実施手順)  ④演習	